

### ■ 第3回 新潟市スポーツ施設の未来構想会議

～「スポーツ×拠点性の向上」に向けて～

日時：令和5年9月21日（木）14時30分～

会場：白山会館 2階 胡蝶

（司 会）

これより第3回新潟市スポーツ施設の未来構想会議を開催いたします。

本日、谷川委員が所用のため欠席となっております。

それでは、以降の議事は、西原会長から進行をお願いいたします。

（西原会長）

議事（1）ですけれども第2回会議のふりかえりということで、事務局から説明をお願いいたします。

（寺尾スポーツ振興課長）

事務局のスポーツ振興課長、寺尾でございます。

それでは、まず前回の会議のふりかえりをさせていただきます。資料1-1をご覧ください。第2回会議での主な意見でございます。

前回の第2回会議では、委員の皆様が考える大規模スポーツイベントの開催や日常的に人が集う場など、これからのスポーツ施設の姿についてご議論いただきました。その結果をまとめましたところ、二つのエリア活用パターンが見えてまいりました。

一つ目、3つのエリア活用パターンです。資料1-2を併せてご覧ください。3つのエリア活用パターンでは、白山エリアでは、球技専用スタジアムを新設、やすらぎ堤もスポーツと一体利用をというご意見をいただいております。それから鳥屋野潟北部エリアに、白山エリアの球技専用スタジアム設置に伴いまして、陸上競技場の代替としてトレーニング特化施設をというようなご意見。ここでは、スポーツ医科学支援や併設された宿泊施設を利用した合宿も可能にしてはどうかというようなご意見をいただきました。次に、鳥屋野潟南部エリアです。鳥屋野潟南部エリアでは、白山エリアにおいて球技専用スタジアムがJ1サッカーのアルビレックス新潟の本拠地となることによって、ビッグスワンでラグビーの試合ですとか、陸上の国際大会などを今以上に開催できるようになるのではないかと。さらに、アリーナを新設するのであれば、コンサートなど複合的な使用を想定すべきとのご意見をいただいております。

次に、二つ目ですが、資料1-3を併せてご覧ください。公園や緑との親和・商業施設と

の連携、さまざまなスポーツができる鳥屋野潟南部集約パターンです。こちらについては、箱モノの視点というよりも、取り巻く環境ですとか、機能に着目したご意見をいただいております。スポーツ施設の日常に公園や緑がある、思い浮かぶといったご意見。それから、施設には普段から飲食店などが営業しており、イベント時には連携して収益を上げるというような発想でというご意見。それから、スポーツをした後に、食事をしたり映画を見たり、日が一泊いられるようなエリア、コミュニティの中にあるスポーツクラブライフができることが大事なのではないかというようなご意見がありました。それから、子どもたちが外で遊べないときでも利用できる施設というの、視点としてはあるのではないかとご意見。それから、防災拠点という観点からは、鳥屋野潟南部というのは最適ではないかというようなご意見がございました。

なお、前回、大野委員から情報提供がございました、平成元年に新潟県知事、新潟市長、亀田郷土地改良区理事長が基本事項に合意した鳥屋野潟南部開発計画の土地利用図を資料1-4としてお手元にご用意いたしました。参考までにご覧ください。

続きまして、本日追加の議論が必要ではないかと考える意見として、未来の時間設定、10年後に着工するのか、それとも50年後の夢を語るのかということで、再度会議での意識の共有が必要ではないかというようなご意見もありました。それからもう1点、近隣他都市、近県等の他都市のスポーツ施設との比較分析が必要ではないかというご意見をいただいております。

以上のことで、委員の皆様のご議論をお願いしたいところでございますが、今後の議論全般にかかわることとして、最初に未来の時間設定、次に二つのエリア活用パターン、そして近隣他都市の順でご意見、ご議論いただくということでいかがでしょうか。会長、よろしくお願いいたします。

(西原会長)

ありがとうございました。それでは、よろしいですか。まず今日は、未来の時間設定、どの辺を未来と捉えていくのかということですね。それから、二つのエリア活用パターン、さらには近隣の他都市の順で議論を深めていきたいと思っております。

それでは、まず未来の時間設定の再確認ということになりますが、第1回会議でスポーツ施設の現状と課題について、新潟市には建設後約60年が経過しているということで、鳥屋野野球場をはじめとした老朽化が進んだ施設があるということです。施設の目標使用年数は80年を基本としているという説明もあったと思いますが、このことを踏まえ、50年というのは少し遠いかなという気がしていますが、20年後くらいを設定すると、20年後くらいの未来というところで議論を深めていきたいと思いますが、いかがでしょうか。50年

というのは、なかなか見づらいかないという気がします。

(山口委員)

20年後に完成というか、あるべき姿になっているという、完成のゴールが20年という認識の20年なのでしょうか。

(西原会長)

そういうことでよろしいですね。

(山口委員)

はい。

(西原会長)

ということは、20年後をスタートという考え方でよろしいですか。20年後から後という考え方。10年後くらいですか。10年後くらい。

(寺尾スポーツ振興課長)

以前ご説明差し上げましたとおり、今ご議論いただいた中で上がっていた施設が、今のところ約60年経過している施設が対象となっているということもありまして、耐用年数としては80年を目途に新潟市の保全計画では見ていくというところがございますので、寿命が切れるのが80年というように考えますと、大体20年後くらいにそれに代わる施設ができていくというのが理想と考えておりますが、いかがでしょうか。

(西原会長)

分かりました。ということは、20年後くらいがスタートといたしますか、そのくらいのところで。よろしいでしょうか。

そもそも近代スポーツができて100年ですから、ここから20年後、さらに80年後という、もしかするとスポーツがなくなっているかもしれないということもあるかもしれないですね。ありがとうございます。では、そういうことで、20年後ということを想定しながら進めていきたいと思えます。ありがとうございます。

それでは、次に、二つのエリア活用パターンということで前回ご意見をいただいて、提示していただきましたが、この両輪を残すのか、あるいは一つに絞るのか、あるいは他の考え方をとっていくのかということですが、その辺も皆さんからご意見をいただきたいと思っています。

少し混乱するとあれなのですけれども、実は、私もはじめは混乱していたのですが、資料1-1がありますが、こちらに青で囲まれている3つのエリア活用パターンが、これがいわゆる一つ目、そしてオレンジ色のものが二つ目ということで、これが二つのエリア活用パターンというように認識されますので、実はブルーのところは3つのエリア活用パターンとあ

りますが、これはいわゆる二つのうちのブルーの中をさらに細かくするとこの3つの白山エリア、鳥屋野南部、それから北部ということになりますので、その辺、二つのエリア活用パターンということと3つのエリア活用パターンという言葉が混同していますけれども、そういう意味で捉えていただければと思います。

では、前回3つのエリア活用パターンということと、オレンジの公園や緑との親和性この二つで考えていましたが、その辺はどうでしょうか。改めて何か新しい考え方を取り入れるとか、あるいは一つに絞ったほうがいいのではないかということもあると思いますが、どうですか。それから、前回、3つですね、特に白山エリア、それから鳥屋野潟北、鳥屋野潟南部という3つのゾーニングをしましたが、この辺についてもご意見をいただければと思いますが。

(山口委員)

3つのエリア活用パターンは、これまで2回の議論の中で、基本的に私もいいと思っています。先ほど事務局から話がありました、老朽化施設 60 年経過という施設、具体的には白山エリアの体育館、市の陸上競技場、そして北部エリアの野球場という、その三つを具体的にどうするのかということですし、それぞれこのエリアに入っていますので、エリア設定としてはこのような感じで異論はないところです。

(西原会長)

ありがとうございました。そうですね。特に白山エリアについては、そうですね。ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

(坂上委員)

すみません。私もこの3つのエリア、上のほうですけども、基本的に考えていくので方向性としてはよろしいかなと思うのですけれども、たまたま県の方とお話しする機会があって、万代島であれば県は若干同じ船に乗ってもいいという、それは個人的な見解かどうかは置いておいて、そういう意向が、仮に一緒にやると、県の力を借りるということになると、そういう考えもあるのかなと。だから逆に言うと、このプロジェクトそのものが新潟市だけで進むという線で行くのであれば、私が今少し言ったようなことは考慮する必要はないのですけれども、政令市と新潟県という、少しそれぞれ立場が違う、県からすると新潟市は政令市なので、県と同格なので、それは新潟市で単独でやってくれという、そういう行政上の制約ですとか、そういう関係は我々は分からないので、その辺の新潟県と新潟市というかわりということや、それを考慮する必要があるのか、繰り返しになりますけれども、そういうことはまったく関係なく、新潟市が市債を起債してたくさんお金があるからどうぞというのであれば、

またあれですけれども。本題を始める前に、少しそういう話があったので。

(西原会長)

どうでしょうか。その辺、うまく連携をとりながらいけるかどうか。あるいは県の情報がありましたら、この万代エリアについて、いかがでしょうか。課長、お分かりの範囲で。

(寺尾スポーツ振興課長)

ありがとうございます。こちらの資料1-2に記載させていただいておりますとおり、令和5年朱鷺メッセあり方検討調査というものを新潟県がされているということは私どもも承知しております、こちらの万代島エリアでこういうことが検討されているということも敢えてこちらにも記載させていただいているところです。今回の検討会議については、我々の行政の主体がどこだとか、そういうところは抜きにして、こういう新潟、この万代島も含めて、一番最初にエリア設定していただいた白山エリアからいがた2km、それから鳥屋野潟南部までのエリアを活用したスポーツ施設等を活用して地域の活性化するにはどの辺にどういうものがあつたらいいかというところ、そういう県と市の関係ですとかお金の関係というのはまず置いておいて、どういう形が一番いいのかということ、皆様、有識者の方からご意見をいただこうという趣旨のもので、こちらの朱鷺メッセのところには何かスポーツ施設があつたほうがというようなことがご意見としてあれば、それはまったくそのとおりでよろしいかと思っております。

(西原会長)

ありがとうございました。

坂上委員、あれですか。例えば万代島エリア、オフレコでもいいのですが、何か情報があつたりすれば。

(坂上委員)

今お話があつたように、今の市の施策として、にいがた2kmということ、これを核にして住みやすいまちにしましょうという、いわゆる構想が一つあるわけですね。そうした場合に、それと一番リンクするのは、県が入るか入らないかは別にして、やはりにいがた2kmということになると万代島はにいがた2kmに入れてもいい範疇かなということになると、にいがた2kmの中心市街地の活性化にこのプロジェクトもついていますねという一貫性は訴えられるのかなという気はするのです。

(西原会長)

ありがとうございました。そういう意味では、にいがた2kmという考え方のコンセプトに基づいていくと、この万代島エリアというのも我々の中では一応入っているということで捉えていくと。ただ、そこに具体的な落とし込みというところまでは、そこまでは触れてい

ませんけれども。ありがとうございます。何となく煮え切らないところはありますけれども、そこは仕方ないかなと。

ほかにいかがでしょうか。お二人からもし何かご意見がありましたら。

(大野委員)

大野です。当初から話をしてきたこの3つのエリアの活用というのは、もともと市の施設がすでに存在している場所であり、老朽化であり、この3つのところをどう再生していくのかという考え方は私も皆さんと同じで同意かなと思いつつながら、基本的には、やはり一番のメインテーマがスポーツを通じたまちづくり、地域活性化をどのようにするのかということ、どちらかというメインはスポーツを活性化させるというよりは、スポーツをキーワードにこの新潟市というまちづくり、地域活性化をどう進めていくのかという観点が一番大事になるのかなと思っています。

そうすると、この3つのエリアの活用をと言ったときに、白山エリアだけで市街地というか、その中心部ですので、施設のあり方としては、やはりまちづくり、地域活性に直結するような施設をもってこなければいけないのかなと思いつつ、逆に言うと、ここでなければ活性化、まちづくりにつながらないという直結した施設というような意味合いで、今で言うとアルビレックス新潟がありますので、私は球戯場がまちのいわゆる中心部にあったほうが、人の交流もそうですし、交通の便もそうですし、かなり経済効果を出せるのではないかなという考え方でいます。

鳥屋野潟のほうは、どちらかと言うと土地もありますし、新潟市から見ると中心部ではないのですけれども、やはり大規模施設であったり、いろいろ県外からも人が集約できるような施設というのは、どちらかと言うと鳥屋野潟の北部とか南部のほうが敷地もありますので、その辺で展開できるのではないかなと考えています。

ですので、概ね皆さんと同じように、この3つのエリアを活用していくというようなことは同じ意見なのですけれども、今度、もう少し具体的に、先ほど言ったように、この場所でなければこれはだめだよとか、この場所は土地があるからこういうレベルの施設が造れるよとかという、具体的などころまでもう少し進んでもいいのかなと考えている状況です。すみません。まだ少しまとまらないのですけれども、そういうことを考えています。

あと、オレンジである公園や緑との親和、商業施設との連携というのは、特段この北部と南部を橋で繋いだらいいみたいな発想も、一つの大きな公園という発想でいくと、ウォーキングであったりジョギングであったり、北部と南部を分断するのではなくて、一体となって、グランピングなどもそうですし、スポーツに拘ることなく子どもからお年寄りまで、健康づくりだったり、いろいろな余暇であったりとか、楽しめるような施設をもっと考えて盛り込

んでいったらいいのではないかなと思いました。

あと、当初の20年後という話をしたのですけれども、多分、20年後にこういった夢が形になっている状態をつくるためには、多分、一度に施設を複数同時に進めるということは現実的ではないと思うので、20年後にこの形になっているのであれば、優先順位を決めて、正直、3年以内、5年以内に何かしら決めて進んでいかなければいけないと思いますので、全部を同時にスタートして、20年後に全部が完成してというのは現実味がないと思いますので、その辺、市のお考えがあれば聞かせていただけたらと思っています。

すみません。右に左に振れましたけれども。

(西原会長)

ありがとうございました。そういう意味では、白山エリアは、いわゆるスポーツの活性化とスポーツによる活性化という目的論と手段論だと思うのですが、だから大野委員がおっしゃったように、白山エリアはやはりスポーツによってまちづくりとか、スポーツによって地域の活性化をするみたいなところで、鳥屋野北エリア、それから南部エリアは、スポーツの活性化とか、あるいは余暇による活性化とか、そのように分かれるのでしょうか。

それから、段階的にということは、何かお考えがあれば聞かせていただければと思います。特になければいいですか。

(寺尾スポーツ振興課長)

ありがとうございます。大野委員がおっしゃるとおり、一気にすべてを整備するというのはなかなか現実的ではございませんので、ある程度20年後のというように申し上げましたが、まずはこういうまちの形といいますか、スポーツ施設があるまちの形、20年後にこうなっていたらいいのではないかというビジョンといいますか、予想図といいますか、皆様の理想、理想と言うと少しあれですが、意見の一つとしてご提言いただくのは、20年後にこうなったらいいのではないかという姿だと思うのですが、それをもとに、我々、実現性ですとか、いただいたものをもとに実現性ですとか、どれから順番に整備していくのかとか、そういうことを決めるのが我々行政の役目かと思っておりますので、もしかすると20年後にまだできていない施設というのものもあるかもしれませんが、理想としては20年後にこうなっていればいいというようなものをご提言いただければと思っております。

(西原会長)

分かりました。ありがとうございます。大野委員、よろしいですか。中山委員、何かありましたらよろしくお願いします。

(中山委員)

3つのエリアという、これはこれでいいのではないかなと言ったらあれですけれども、こ

ういう使い方をしていくというビジョンはいいでしょうし、先ほどおっしゃっていたように、万代島エリアも何かうまく連携できて、新潟県とも協業できるようなところがあると非常にいいかなと思うのですが、これは、やはり離れていると、競技単位で次の試合はこちらですよといったときに、移手段ということも絶対に出てきますよね。ですので、やはり交通インフラが全体に整備されていないと、3つのエリアをつくったら、結局バラバラになって、新潟は使いにくいよねとなって終わるかなという気はするのです。ですので、例えばこの南部エリアは土地がけっこうありますので、そこに車を停めればシャトルバスがきちんと運行されるとか、そういうことも視野に入れて検討していかないと、ただ3か所でそれぞれ夢を描いて終わりましたになってしまうと、今、新潟市では交通政策でいろいろと最近ニュースになっていましたけれども、そういう話になってしまうと、同じお金をかけるのに非常にもったいないと考えております。

(西原会長)

ありがとうございました。このスポーツ施設の夢を起爆剤としてというか、そういう意味で、そこを起爆剤として公共インフラ、公共交通インフラなどがうまくいけるといいなと思います。すでに今も、例えばビッグスワンでサッカーの試合が終わった後というのは、本当に車が渋滞して1時間以上あそこを抜けられないという状況ですし、ましてや今度は商業施設がこの辺にできてきたとなると、とても車では行き来できないということであれば、やはりかなり輸送力のある公共交通機関が必要なのかなという気もしますし。ありがとうございました。

よろしいですか。では、ここについては概ね異議なしということで。

あと、大野委員から出た、実はここにさらっと書いてありますが、鳥屋野潟に橋が架かっているのですか。これは、もしかしたら残しますか。大事なところだし。

(大野委員)

車が通れなくても、いわゆるパークとしての機能を高めるためにも、自転車なり人なりが動けるような、先ほど言ったように、今で言うウォーキングとか、ジョギングとかでも健康づくりがありますけれども、車が通らなくても橋があれば、北部と南部を一体にしたりとか、あとは、今ビッグスワンにスポーツ医科学センターなどが当然ありますけれども、トレーニングエリアなどをつくったときに、やはり医科学的な機能をもたせたり、そういうものが大事になるのではないかなと。どうしてもスポーツ施設というと、皆さん、イベントを誘致するための大規模なものをお金をかけてつくらなければいけないみたいな発想になりがちなのですけれども、逆にイベントとか大会などの誘致をしなくても、トレーニング専用の施設であったり、もう少し体のコンディショニングの専用の施設であったり、そういう観点か



ら考えると、大規模大会を呼んでくるための大規模施設をお金をかけてつくるというよりは、それぞれの市民、県民もそうですけれども、必要な機能を集約する施設というのはありだと思いますので、そういう意味では、先ほど言ったように、人が通れるレベルでもいいので、つなげておいたほうが一体感が出てきて機能性は高まるかなと。ただ、鳥屋野潟は、前に言ったように、野鳥の関係があつて、確かビッグスワンもサブトラックなどは何時以降はライトを点けてはいけないとか、またスポーツとは別の課題というか、クリアしなければいけないものはあると思うのですけれども、あの辺はそのようにしたほうがいいのかなと思いました。あとは、逆に一般の人たちもそこにつながりがあるだけで、あの辺の住民の人たちも、高校生も、それこそ東京学館に行く子たちもそうでしょうけれども、インフラの関係からいっても、利便性が上がるのではないかなと思います。

(西原会長)

ありがとうございました。そうですね。ここ、実はまだ時間があるので、少し私から、あまり座長が話すのもあれなのですけれども、実は、これ、北エリア、医科学センターとか、そういうトレーニングセンターがありますけれども、これから新潟が首都圏とかと差別化したときに、多分ハードをつくっていくということと同時にソフトを充実させていくということがすごく大事だと思うのですが、今、実は新潟県といいますか、新潟のこの辺のいわゆるスポーツの科学的なトレーニング、これが、実は40ある都道府県の中で新潟がかなり上位という、トップにいつているくらいです。やはりそれによって、かなりアスリートが活躍しているのは、実はスポーツ医科学の分野で相当サポートしているのです。例えばですけれども、あまり表には出ていないのですけれども、スポーツ科学の分野で国の科学研究費が、一番は筑波大学なのですが、2番が順天堂、3位が東大、そして実は4位が我々の大学がとっているのです。やはりそれがかなりサポートしていて、早稲田大学を抜いたのですけれども、今、大体3億円くらいを国からもらっていますが、やはりそういうソフトを何年もかけて培ってきたものをうまくこの中に入れていくことで、特化できるかなと思っています。

あとは、やはりアルビレックスであるとか、すでにいろいろな資源があるものを、このハードの中にきちんとソフトを注入していくということがすごく大事だと思って、そういうことがむしろ新潟の特化しているところかなと思います。

国立スポーツ科学センターJISSがありますが、JISSにも年間相当数の合宿とかいろいろな人たちが関係者として来ますが、そういう意味では、新潟にミニJISSみたいなものができても、今、それに匹敵するようなソフトもありますし人材もいますので、それはすごくできるかなという気がします。ありがとうございました。

あとは、よろしいでしょうか。では、このエリアについては、こういう形で進めていただ

くということをお願いします。

では、もう一つですが、近隣他都市のスポーツ施設の比較分析ということで資料がありますので、事務局から説明をお願いいたします。

(スポーツ振興課 高橋)

資料2をご覧ください。近隣県にあるアリーナについて、コート数、収容人数という箱ものの大きさを一覧にしたものです。福島県から長野県までということでセレクトさせていただきました。左から県の施設、県庁所在地にある施設、そしてほかの市にある施設の順に記載しています。また、東総合スポーツセンター、新潟県が一番上に記載されておりますが、新潟市東総合スポーツセンターでのバドミントンコート数及び最大観客数を超える施設を、黄色でマーカーしております。

アリーナについては、コンサートですとかMICEの取り込みなど、複合的な使用や収益性を意識するとともに、一定の規模感ですとか、プロスポーツとの連携が必要というご意見がありました。さらに競技にもよりますが、全国大会を1会場で行うことができるほどの規模を備えたらどうかというご意見もいただいているところです。

こうして一覧にしてみますと、群馬県は規模ですとか施設数ともに充実していると見てとれます。そのほかの県も、プロバスケットボールBリーグの本拠地を中心として、広域からの集客にも対応できる規模のアリーナを有していると見てとれます。

次に、資料3でございますが、今ほどご議論いただきましたエリアのところでもお話がありました球技専用スタジアムにつきましてということで、現在、スポーツ庁及び経済産業省では、まちづくりや地域活性化の核となるようなスタジアム、アリーナの実現を目指すスタジアム・アリーナ改革に取り組んでおりまして、2025年までに20の拠点の選定を実現することとしています。これまでスポーツ庁の資料を見ますと、17が選定済みと把握しておりますが、この資料は、現在選定されているものからスタジアムだけを抜粋したものです。上の表に各施設の名前ですとか、まだ着工していないところはプロジェクト名になっておりますけれども、その次、施設の用途をご覧いただくとおり、未来に向けたスタジアムはすべてサッカーですとか、球技の専用スタジアムになっておりますので、先ほどご議論いただいた球技専用スタジアムという、私どもの未来に向けた議論をしている中では的を射た話なのかなと思っております。

こちらの資料3は、参考までにご覧いただければと思います。説明は以上でございます。

(西原会長)

ありがとうございます。資料2の右ですが、魅力度ですとか観光として行きたいというようなランキングがありますが、これは何かあれですか。

(寺尾スポーツ振興課長)

地域の魅力度ランキングということでニュースになったりしますが、最新の 2022 年度の調査ということで、都道府県の魅力度ランキングの順位と、同じく観光に行きたいランキングを参考までに記載させていただきました。漠然とした新潟に対するイメージですとか、認知度を反映しているのかなと思っておりますので、大会ですとか合宿を誘致する、私どももそういうことを考えていくうえでもこういう視点も大事ではないかと思えます。本日は、こちらはあくまで参考としてご覧いただければと思います。

(西原会長)

ありがとうございました。それでは、今ご説明いただきましたが、何かご質問、ご意見等がありましたお願いいたします。

(坂上委員)

資料 2、ご苦勞いただいて作っていただいてありがとうございました。一つ気になるのは、先ほど来 20 年後を目指すということがありますよね。そうすると、これは現状の施設ということなので、各県が我々と同じようなことを考えていけば、そういう情報なども必要なのかなと。今比べても、こちらは 20 年後であって、20 年後に実は同じようなものが群馬とかにあれば、少し難しい宿題になると思うのですけれども、現状はこれでいいですけれども、20 年間の変化というものを見ないと、新潟でこういうものをつくったけれども、実は長野が倍の規模をつくってしまったよとかということになると危ういかなと、そういう大きな施設の計画などがあれば加味してもらいたいのかなと思いました。

例えば長野県は、うる覚えですけれども、5 年後に国体があるから、塩尻に大きな体育館をつくるよとか、それは公表されているし、あるわけですよ。そうすると、これだけ見て新潟はこういうものをつくれれば優位だと、地域間競争に勝ると仮に思ってしまうと、実は同様なものが近くにあって、これは新潟は少し負けたよねということにならないように、そういう情報も仕入れていただくといいのかなと思いました。

(西原会長)

ありがとうございました。確かになかなか難しい宿題ではありますが、できるだけ近隣の県の情報が入ったら、ぜひ紹介いただければと思います。今、現時点で何かありますか。今、塩尻のお話もありましたが、特に皆さん、把握されているものはないですか。

(スポーツ振興課 高橋)

特に近隣県という範囲では、今のところ情報はありません。

(西原会長)

ありがとうございます。

(坂上委員)

あと、スポーツ協会が、少し範囲が広がってしまいますけれども、政令市のスポーツ協会の会合を年2回やっていますよね。やっているのです。そこにどういうものを企画していますかというものを問いかけてきてもらえば、近隣ではないけれども、政令市が今後そのようなものを企画しているかという情報はとれるのかなと思います。

(西原会長)

ありがとうございました。

(大野委員)

今、坂上委員も言われていましたけれども、逆に古い、ここ10年くらいで全国的に建ったスポーツ施設の規模とか、例えば金額とか、あとは成功事例とか、そういうものを出してもらったほうが、いろいろ検討できるのではないかなと思うのです。これだと近県という切り口もありますし、政令指定都市という切り口もあるでしょうし、逆に雪が降って天候が悪いところのエリアということも切り口としてあるでしょうし、そういう部分のカテゴライズの部分を見ながら、今言ったようにここ10年くらいで行政が絡みながら施設をつくった、先ほど言った民間が半分で行政が土地だけ出したみたいなところもあるでしょうし、あとは成功モデルもそうですけれども、逆に失敗モデルなども吸い上げて出してもらいたいかなと思いました。

最近で言うと、エスコンフィールドなどは私も見てきましたけれども、なかなか規模も規模ですし、近県で言うと金沢辺りが1万人規模のスタジアムを86億円でしたか、金沢ゴーゴーカーレースタジアムということで何か月前かに立ち上がって、あれはツエーゲン金沢のホームグラウンドということで、ツエーゲンはJ2でしたでしょうか、そのくらいの予算をかけて、J2のチームがあることによって新しくできたのですけれども、それがどのような流れを生んでいるのかとか、もしでしたらそういうことを教えていただけるといいと思います。

(西原会長)

ありがとうございました。さらに細かい宿題を投げかけることになりました。とにかくアンテナを張っているところから情報を得るといのはすごく大事だと思いますので、お願いします。

ほかにいかがでしょうか。

(山口委員)

ぜひ交通アクセスも含めて調査いただければと思っています。大事なことだと思いますし、よろしくをお願いします。

(西原会長)

そうですね。交通アクセス、新潟市、やはりそこはすごく大事ですよ。

(山口委員)

そこは弱みです。

(西原会長)

弱みですね。ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。坂上委員、よろしいですか。ありがとうございます。

では、続いて議題(2)にいきたいと思います。同類施設についてということで、資料がありますので、事務局からお願いいたします。

(スポーツ振興課 高橋)

資料4をご覧ください。

先ほどのエリアの話と同様に、第2回会議での委員の皆様のご意見を踏まえまして、拠点化・活性化に寄与する施設と、その同類施設について記したものでございます。この会議では、本市の拠点性の向上に寄与するといった視点でスポーツ施設を見ると合意しているところでございますが、会議で想定するエリア、白山から鳥屋野潟南部までというエリアでございまして、すでに拠点化ですとか活性化に寄与している、さらに広域の集客を可能としている施設であるデンカビックスワンスタジアムとハードオフエコスタジアム新潟がございまして、

1枚目、県の施設であるデンカビックスワンスタジアムと、その同類施設として新潟市陸上競技場と鳥屋野潟運動公園球技場についての資料でございます。第1回会議でもお伝えしましたが、新潟市陸上競技場、鳥屋野の球技場、いずれも開設から60年を経過しております。市民の練習の場所としてのほか、陸上競技場は女子のプロサッカーWEリーグの試合も開催されています。先ほど議事の(1)での議論の繰り返しになりますので、エリアにつきましては概ね3つのエリアがよろしいのではないかと話をいただいたところでございますが、その中でも出ておりました陸上競技場と球技場に代わり球技専用スタジアムとトレーニング特化施設を設置することによって、市民の日常の利用と県レベルの大会利用を今後減らすことなく、さらに今以上にハイレベルのラグビーの試合ですとか、大規模な陸上大会が開催できると考えております。さらに今にないスポーツ医科学支援ですとか、合宿の場所といった特徴も生み出すが可能ができると、先ほどご意見をいただいたところでございます。

2枚目でございますが、こちらは野球場です。県のハードオフエコスタジアムと、その同類として鳥屋野運動公園野球場についてでございます。本市の市営の野球場の現状でございますが、現在、公式の野球大会が開催できる球場が三つございます。この鳥屋野野球場と西区のみどりと森の運動公園野球場、最後が西蒲区の城山運動公園野球場でございます。この

うち鳥屋野野球場は、高校野球、社会人野球など、アマチュアの野球大会、野球チームなども一定のニーズがありまして、さらに立地の面からはエコスタのサブスタジアムとしての利用も便利とされているところです。こういった面からでも、本市としてこのエリアに市営の野球場は必要と考えておりますし、さらに今ある鳥屋野野球場は建て替えを前提に考えているところでございます。

1枚目のデンカビックスワンスタジアムは、議事（1）と内容が重複ではございますけれども、資料をご覧いただきまして、内容の確認をお願いできればと思っております。

2枚目の鳥屋野野球場についてでございますが、こちらは、次回、今日のエリアの話も踏まえて、必要な検討資料の詳細なものを用意したいと思っております。そこで改めて同類施設の整理の議論をお願いしたいと考えております。

（西原会長）

ありがとうございました。それでは、我々の意見を踏まえて、特に資料4の1枚目につきましては、先ほどの議論の（1）のところでもすでにお話が出ているところですので、改めての確認ということになると思っております。

それから2枚目につきましては、特に鳥屋野運動公園の野球場を中心にですが、こちらは、次回、いろいろな資料をいただいたうえで検討していくということになりますので、1枚目の確認と、それから2枚目について次回やるということになると思っております。

何かこの時点でご意見等がありましたら、お願いいたします。

（坂上委員）

質問ですけれども、資料4のデンカビックスワンスタジアムと新潟市の陸上競技場、それからハードオフの野球場ですが、この年間利用者数というのは、例えばビックスワンは来月8日にマラソンがありますよね。そこだと何万人も来られるわけですが、そういう人数というのはこの利用者数に入っている数字でしょうか。違うのか。大きなイベントをたくさんやれば、ここは、ビックスワンなどはどんどん大きくなっていくし、そういうところに使われないところが、リアルな市民利用というか、そういうことで、その辺が分かりにくい。話の前提としては、私は、施設はお金がかかったとしても、やはりその分利用して下さる方が増えれば、これはやはり高い、安いということから言えば、高くても皆が利用するのは安いし、安くても誰も利用しないのは高いと、パーヘッドというか、経営などはそうですね。効率という意味で、やはりそういう観点もいるので、最初にお話ししたように、利用者というところにそういう数が入っていると、少し見誤るというか、より分かりやすくなるのかなと思ってお聞きします。

（西原会長）

ありがとうございました。このビックスワン、約 50 万人ですけれども、これは、内訳とかは分かりますか。

(スポーツ振興課 高橋)

新潟県で公表している資料の数字を引用しておりますが、イベントの来場者の数も入っております。ただ、いわゆる通常利用とイベント利用の分けはなかったもので、今、そこは同じ数字になっているということでございます。

(坂上委員)

観客は入っているのでしょうか。

(スポーツ振興課 高橋)

観客も入っています。

(坂上委員)

観客も利用者。

(スポーツ振興課 高橋)

そうですね。イベントの来場者数も一緒に含まれているということです。

(大野委員)

私の認識というか、多分、新潟シティマラソンの参加者は1万でここに入っていると思います。

面白いのが、マラソンも含めて、平日などは陸上で高校生や中学生もけっこう使うものですから、この利用者数の人数の押し上げというのは、どちらかという陸上競技の関係者を含めてかなり寄与していると思います。ただ、スタジアム側から見ると、サッカー等の興行のほうが先ほどおっしゃられたように収益で見ると大きいということで、今のビックスワンは当然収益の構造を優先する経緯があるので、どちらかというメインはやはりサッカーのJリーグの試合のほうが優先になって、ただ、日常から使っている利用者とか一般市民とか県民の率で言うと陸上競技のほうが圧倒的に多いのですけれども、優先順位としては、やはりそちらは後回しにされるという、そういう矛盾した現象が起きています。でも、これは新潟だけではなくて、前回も話したように、全国的なスタジアム問題というようなことで、実際に使って必要としている人数はこちらのほうが多いのだけれども、収益構造があるから優先としてはこちらだよみたいなこととか、最近で言うと、横浜あたりも来年の利用調整のところでやはり収益性の高いコンサートとか、そちらのほうをある意味優先にしながら、地元の人とか、あとは参加人数は多いのだけれども押し出されてしまっみたい状況は、新潟だけでなく全国的に今問題になっていると聞いています。

(坂上委員)

そうですね。そういう面も含めて、そういう数字が別立てで分かればいいなという意味で、  
ですよ。

(大野委員)

そうですね。

(山口委員)

すみません。関連してみたいな形で今の議論から少し外れるかなと思うのですけれども、  
けっこう私も仕事柄、いろいろなスポーツ団体で、ビックスワンを使いたいのだけれどとい  
う競技団体の方からお話しいただいたときに、サッカーアルビレックス新潟があつて新潟が  
活性化されていいというメリットがある反面で、土日曜日の本当にいいときに最優先で押さ  
えられるものだから、やはり使えないというような悩みをけっこう聞きます。例えばなので  
すけれども、この前、ラグビー協会の方、今ちょうどワールドカップで盛り上がっています  
けれども、例えば日本協会がテストマッチについて、今まではけっこう中央でやっていたの  
だけれども、盛り上がりが一過性になることがけっこう多くて、地方に波及させたい、遡及  
させたいということで、やる気のある県はどんどん手を挙げてくれという動きがあるのだけ  
れどもという話があつて、そういう中で、現陸上競技場のところで球技専用というのは非常  
にいい話だなと思って聞いていました。ワールドカップのときの、例えば釜石、これだけ少  
ない人数でいいのかと思ったのですけれども、定員が1万6,000人で造っています。この人  
数であれば、この場所でも現実的であるのかなみたいなの、すみません、少し大野委員の発言  
から尾ひれがついてお話をさせていただきました。そういうお話もあるので、アルビレック  
スはすごくいいのですけれども、逆にそういうデメリット部分もあるということだけ紹介さ  
せていただきました。ありがとうございます。

(西原会長)

ありがとうございます。

(大野委員)

すみません。山口委員の話を聞きながら、もう少し現場のレベルの話をする、芝の問題  
もありまして、サッカーといわゆるスタジアムの共存のときに課題になる芝生の問題があり  
まして、今、いわゆる一般市民の人、県民の人が借りてやるときは、芝生には一切入れませ  
んし、仮に陸上の大会をやるにしても、Jリーグの試合から逆算して芝生の中に立ち入っ  
てはいけないとか、専用で全部借りているのに、芝の補修を同時にさせてくれとかとって、  
競技をしているのに芝生の補修が入ったり、そういう芝生様問題というものが現場でありま  
して、そういうリアルなこともあります。一番よろしくないなという、表現がいいかあれな  
のですけれども、新潟市の陸上競技場などは、そういう意味ではトレーニングの部分であつ



たりとか、とにかく市民、県民の人、一般の人の利用が多いので、そこまで芝生をキープする必要はないのかなと現場では思うのですけれども、通常のところから芝に入れないという、多分それはそれで新潟市のご事情があるのでそこまでは突っ込まないのですけれども、ビックスワンの場合はそういう j リーグのゲームがあるので、そういう問題があると。

逆に市の陸上競技場くらの施設は、その辺の緩和というか、そこまで頑なにしなくてもいいのかなと思っているのですけれども、もともとはあそこでもサッカーをやるということで芝生管理ということが出てきて、J リーグの試合はないものの、かなり厳しい状況があったりするので、その辺は現実としてうまいすみ分けと調整は現段階でも可能ではないかなと思います。一応そういう。

(西原会長)

ありがとうございます。芝問題ですね。そこはあります。

やはりどうしても、先ほど釜石の話がありましたけれども、今、一つ問題点として、スポーツの神聖化と言って、あまりにもスポーツを、例えばアルビレックス新潟というクラブチームがこのビックスワンでやることによって一般の人々から離れてしまう、本当はクラブチームというのはもっと市民に近寄ったほうがいいのではないかというのが本来のあり方だと。釜石などは、ラグビーだと本当に市民と一体化していますよね。それは、スタジアムの構造上そういうことが神聖化されてしまうと実はよくないのではないかとすごく言われていて、だからそういう意味ではビックスワンでやるよりも、例えば新潟市の白山のところにあるということはやはり身近になるし、そういうことがすごく大事ですよ。ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

では、2 枚目の野球場については、次回いろいろな資料が出てきますので、そこで検討いただくということでお願いします。

では、少し早いのですが、予定の議事はすべて終了いたしました。全体をとおして何か委員の皆さんからご意見がありましたら、お願いいたします。

(山口委員)

今日のおさらいというか確認なのですけれども、一応 20 年後のあるべき姿を描く会議だということの確認をさせていただきました。ここの確認なのですけれども、20 年後のあるべき姿を描くのが役割なのか、それをもとに事務局サイドとしてそこまでの道のりというか、行程表みたいなことまでつくられる予定があるのかどうなのかというところで、我々も意見の出し方が変わってくるのかなと思うのですけれども、そこだけ確認させてください。

(寺尾スポーツ振興課長)

ありがとうございます。まず、こちらの未来構想会議のご趣旨ということだと思っておりますが、ご確認ということだと思っておりますけれども、私ども、皆様にお願ひします未来構想会議の趣旨としては、あるべき姿をまずは行程ですとか、それからある程度の、あまりにも突拍子のないものはあれなのではございますけれども、ある程度お金の面とかそういうものは置いておいて、こういう姿があるべきではないかというご提言をいただきたいというような趣旨でございます。ですので、では今後どのような行程で進めていくのかとか、そういうものについては、皆様のご提言をもとに、我々新潟市で改めて財政ですとか、それから今の施設の耐久度といひますか、今後どこまでもつのかとか、それから今度は逆に地域の皆様のお声ですとか、そういうものも聞きながら具体化していきたいと考えております。

(西原会長)

山口委員、よろしいですか。

(山口委員)

はい。

(西原会長)

そういう意味で、少し上位のところで考えていくという。

(山口委員)

確認までということ。

(西原会長)

分かりました。ありがとうございます。

(大野委員)

行政のお力だけでいくのか、それとも民意の力も借りてこれから開発を進めていくのか、具現化するためには今は多分いろいろな方法があるかなと思ひるので、少し情報共有だけしておきたいと思ひのですが、新潟市の場合、当初から日本一の施設はいらないけれども、日本初の施設がいいのではないかなというような提唱と、さらには収益構造、また行政単独の開発というのは多分今の現状で厳しいのかなと思ひますので、民間を巻き込んだいわゆる施設のつくり方というような中で、去年、エスコンフィールドのところを見て、こういうやり方もあるのだなと思ひたのでございますけれども、スタジアムの横にホテルを併設して、ある意味サウナに入りながら試合観戦ができるとか、ホテルの部屋に泊まりながら試合観戦ができるとか、少し前のスポーツの概念だとその会場に行かなければ見れなくて、外から見るなどはもつてのほかだみたいな文化があつたのでございますけれども、やはり成功事例を見ていると、そういう新しいアイデアでけっこうスポーツ施設をつくっていて、勝手ながらそういうことを言いながら、白山のエリアが市街地で、では需要があるものは何かと、マンションなどは今ど

んどん新潟市の中で建っている中で、仮にサッカーの試合が見放題のマンションが、仮にですよ、あったとしたら、発想としては、そういう意味では民の力の協力もあるのではないかなと思いました。エスコンフィールドはホテルだったのですけれども、新潟は、白山エリアだと花火も見れるしサッカーの試合も見放題のマンションがあったら、これはある意味通常のマンションよりも付加価値が出てきて、いわゆる民間も一緒になって力を貸してくれるような、そうしろということではなくて、考え方としてそのような地域のモデルもあるので、先ほど少し細かく言いましたけれども、新しいアイデア出しのためにも、そういう新しい全国の施設の情報を教えていただければ、新しい切り口で新潟らしい施設ができるのではないかなと思いました。

(西原会長)

ありがとうございました。課長、マイクを持っていますね。

(寺尾スポーツ振興課長)

ありがとうございます。そういう建設手法ですとか、そういうものについても、またこの年度内の会議のところで皆様からご意見をいただきたいと考えておまして、というのは、最近の新聞でも築地の市場の跡にドーム球場を建てて、ほかにもホテルをつくったりとか、商業施設をつくったりという構想があるというような新聞記事も出たりしております。やはり私どもで用意させていただきました資料3の、これは参考までにご覧いただきたいというところなのですが、こちらの資料を見ましても、民設、それからPFIといった民間活力を活用した建設というのが主流になってきているというところもございますので、そういう中で、今回エリアについてある一定の方向性が決まって、今度は施設についてどのような施設が必要なのかというようなご意見を踏まえて、段々どのような施設がどこにあるといいのかというような理想像が描かれていくと思いますので、それを実現するために、例えばここにはほかの施設と一緒に合わせてつくったほうがいいのではないかとか、そういう皆様の、経済界、それから観光の面ですとか、いろいろなお知恵をお借りしながら、そういうアイデアですとかご意見を次回以降にいただければと考えておりますので、よろしく願いいたします。

(西原会長)

ありがとうございました。

(坂上委員)

よろしいですか。まったく同感で、私はスポーツ協会から来ているので、本来であれば専用のジムというか体育館がいいのですけれども、一市民という立場になると、例えば白山エリアであれば、あそこに体育館だけという施設は少しもったいない。例えばですけれども、

市立美術館がありますけれども、あれは駐車場が少ないので、なかなか行きたいときに行けない。それから、新潟市からどんどん銭湯が消えているから、あの建物の中に体育施設と銭湯と、例えばですよ、図書館と美術館などが一緒になっていると、白山エリアに関しては最後のラストリゾートだと思いますので、やすらぎ堤も含めて、本当に頭を柔らかくしてつくっていくというのは、とても大事な考えだなと思います。

それから、先ほどお聞きすればよかったですけれども、新潟市内で硬式野球ができる球場は三つだけ、それはどういう縛りがあるから三つだけなのだろうなと思ったのです。野球場としてはもっとあるので、えっと思いました。もしお分かりになれば教えていただきたい。

(スポーツ振興課 高橋)

三つというのは、硬式野球の大会ができる球場が三つだということです。

(坂上委員)

いわゆる公式、本当のプロとかそこまでいなくても、いわゆる野球連盟がこの球場でなら公式戦をやってもいいというものが三つという。

(スポーツ振興課 高橋)

そうです。

(坂上委員)

分かりました。

(西原会長)

ありがとうございました。ほかによろしいですか。

では、なければ、皆さん、円滑な議事の進行に、またいろいろなご意見をいただきましてありがとうございました。

それでは、事務局にお返しします。お願いします。

(司 会)

西原会長、スムーズな進行を誠にありがとうございました。委員の皆様におかれましても、貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。本日頂戴しましたご意見を踏まえて、次回以降進めてまいりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

次第の3、その他とありますが、事務局からは特にございませんが、委員の皆様からはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、次回、第4回は11月を予定しております。改めて日程調整のご連絡を差し上げますので、よろしくお願いいたします。

それでは、以上をもちまして、第3回新潟市スポーツ施設の未来構想会議を終了いたします。本日は誠にありがとうございました。